



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 37 号

2021 年 11 月 25 日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 11月25日 緒川小学校

11月25日、この日は又場SP、今日から新たに活動を始める久米SPと駒木SPの3人のSPさんが緒川小学校に来ていました。朝、学校に行くと又場SPと久米SPが2人で元気に職員室に入ってきました。2人は先日のSP研修会に参加をし、同じグループでワークショップを行っていました。SPさん同士が繋がります。知った顔がある、一緒に学んだ仲間がいてくれると安心しますよね。

今日から緒川小ウィークリーSPの仲間に入ってくれた久米SPは、緒川小学校出身とのこと。「懐かしいです。小学生の頃、あんなに大きく感じた校舎が今は小さく感じます。」とワクワクした表情で話してくれました。朝の打ち合わせ後、さっそく2年生の教室に入りました。緒川小のウィークリーSPさんが増えてきたこともあり、子どもたちもSPさんがいる日常に慣れてきた様子うかがえました。久米SPの周りには子どもたちがあつという間に集まっています。



そして、担任の先生の計らいで「質問タイム」を設けてもらっていました。子どもたちは楽しそうに、次から次へと質問していきます。久米SPの明るくパワフルな雰囲気満載の、笑顔に包まれた「質問タイム」でした。久米SPがすごいのは、レスポンスが早く、そして反応が大きいことです。これができるのがすごい。久米SPのセンスが光っていました。久米SPの話すテンポによって、子どもたちも自然と楽しくなっているようでした。子どもたちに質問を返したり、



時には「足を降ろしてちゃんと座ろうか。よし、じゃあ質問なんだった？」と様子をよく見て対応したり、答えにくい質問（SPさんたち、ありますよね。答えにくい質問。）も上手に受け流しながら、「質問タイム」を進めていきました。初日とは思えないほどの対応力だったと思います。担任の先生方にもすぐに挨拶をされていて、とにかく適応力が高い久米SP。これから母校で、教員としての目線で学校を見て学んでいってください。

又場SPは特別支援学級に入っていました。9月から活動をしている又場SP。すでにベテラン感満載です。現場の先生方とも打ち合わせながら、柔軟に子どもたちの支援をしてくれていました。朝の準備の時に、支度が終わった児童が本を読んでいた。すかさず話しかける又場SP。それも腰を下ろして、笑顔で話してくれます。大人も子どももバタバタする朝の時間。児童にとって、「ホッとできる」そんな朝のひと時になったのではないかと思います。先生に気にかけてもらえると、やっぱり子どもたちは嬉しそうです。あいさつの場面では、サッと気になる子の横について、一番良い姿勢であいさつをしてくれていました。先生がきちんとあいさつしていたら、子どもにも伝わります。言葉で伝えること以外にも、子どもに伝える方法はたくさんあります。又場SP、活動



を始めて3ヶ月目とは思えないほど、スムーズに動いていました。

駒木S Pは午後から活動をしてくださいました。今年の「夏のわくわく算数教室」に参加以降、教育実習などでなかなかS P活動をスタート出来なかった駒木S P。満を持しての参加です。とても楽しみにしてくれていたそうです。この日はさっそく、緒川小学校特有のオープン・タイム（子どもの興味・関心を大切にした学習の時間。基本的に個人で進め、自分のテーマに沿って子ども自身が立案・活動を展開していきます。）での支援でした。5時間目が始まる前に、校内見学をしました。オープン・スクールを初めて見た駒木S Pは、「すごい。こんな学校、見たことないです。」と、終始目を輝かせていました。「今日のオープン・タイムは自由に見てみてくださいね。そして、子どもたちに、どんなテーマに取り組んでいるか、そのテーマを選んだ理由は何か、ぜひ聞いてあげてください。それぞれの想いがありますよ。」と教務主任の鈴木先生からお話ししていただき、駒木S Pは積極的に子どもたちに声をかけていました。すぐに子どもに声をかけられる駒木S P、さすがです。駒木S Pは常に笑顔で、楽しそうに話を聞いてくれるので、高学年の子どもたちもすぐに打ち解けていました。今までに自分が受けてきたことがないであろう授業スタイルだったと思います。子どもたちも伸び伸びと過ごしている時間ですから、駒木S Pにとってはとても貴重で新鮮な学びの時間だったことと思います。



緒川小学校には現在11人のウィークリーS Pさんがいます。複数校で活動したり、学校行事に参加したりして、とても意欲的に取り組んでくれています。エネルギッシュで、明るいS Pさんばかりですから、緒川小学校の子どもたちも自然とS Pさんの周りに集まってきます。そんな様子があちらこちらで見られます。12月8日にはマラソン大会があるそうです。普段、他校でウィークリーS Pの活動をしているS Pさんも数名、この日は緒川小学校で子どもたちと併走をしてくれる予定になっています。（きっと体力勝負の一日です。）こうした学校行事に参加すると、普段の授業日には見られない子どもたちの姿を見ることが出来ます。こうした「イレギュラーな日の子どもたち」の様子を知っておくことは、将来現場に出た時に役立つと思います。どんな準備が必要か、どんな支援・指導が必要か、その日その時その瞬間にしか学べないこともあります。私もまた活動の様子を見に行きます。楽しみです。参加するS Pさん、よろしくお願いします。



←夏休みに S P 活動をしてくれた、大学院生の竹内さんはこの日、緒川小学校で実習をしていました。長期スパンでの実習、大変だと思います。上手く出来ず、悔しい思いも何度かしていると聞きました。それでもめげない竹内さん。悔しい思いも含めて、この経験は必ず将来に繋がるはずです。9月からの実習ですが、すでに子どもたちの名前もバッチリ覚えていました。子どものつばやきも拾いながら、実習生とは思えない授業をしていました。これからも引き続き、頑張ってくださいね。